

具体的な施策の提案概要について

テーマ	協議のポイント	視 点	具体的な施策
担 い 手 育 成	担い手とは誰なのか。	① 担い手を地域で考える。 高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、「人と農地の問題」を地域で考える。	人・農地プラン(地域農業マスタープラン)の作成 ・地域の 10 年後を見据え、地域農業者等が、今後の中心となる経営体（個人、法人、集落営農）やそれ以外の農業者を含めた地域農業のあり方を話し合い、市がプラン作成を行う。
	農家の後継者 新規参入者 法人	② 担い手を団体（法人）と支える。 J A と連携し、「鎌倉ブランド」のブランド力の向上につなげる。	鎌倉ブランド体制支援 ・ブランド力の向上による、農業経営の安定化、を目指す。
		③ 担い手育成を県の専門機関と連携・協力する。 農業経営向上にあたって専門知識を活用する。	かながわ農業アカデミー、神奈川県農業技術センターと連携、協力 ・新規就農者や法人の農業経営の相談。

直 売 所	大型や常設型によらない直売はできないか。	① 鎌倉の農業振興への支援を集めるために、市民へ農業を周知する場。 ② 大型の直売所や常設型の直売所は、野菜の安定出荷が見込めない中では、難しい状況である。	プチ・マルシェ(小さな市場)の開設 ・大型直売所や常設型の直売所の新設が難しいことから、「朝市」のような、小さな市場(プチ・マルシェ)を、J A 各支店や市の公共施設などを利用して開催しよう。
-------------	----------------------	---	--

鎌倉市版農業センサスの作成	鎌倉市版農業センサスの作成 ・農業振興の具体的な施策を検討するためには、農業に関する基礎データが必要である。農業者個々の情報収集には、市、J A とも限界がある。農林業センサスを利用しよう。		
---------------	---	--	--